

核兵器の非人道性を巡る議論における日本のアプローチと
2015年NPT運用検討会議

平成26年4月19日
外務省軍備管理軍縮課・野口

1 2010年NPT運用検討会議 核兵器の使用の破滅的な人道的結末への強い懸念を表明

2 「核兵器の人道的結末」に関する共同ステートメント

(1) 2012年NPT第一回準備委員会、2012年国連総会第一委員会における共同ステートメントは核兵器の非合法化を含む内容。

(2) 2013年NPT第二回準備委員会における共同ステートメントは、核兵器の非合法化部分は削除された形で発表。

(3) 2013年国連総会第一委員会における共同ステートメントに日本は参加（「いかなる状況においても核兵器が二度と使用されないことが人類の生存そのものにとって利益である」旨の記述とともに、本ステートメントが「人類の願望」から発想された「政治的支持の高まり」を示すものであること、核兵器の破滅的結末についての意識が「核軍縮に向けたすべてのアプローチおよび努力」を支えなければならないことについて記述がある。）

(4) 2013年国連総会第一委員会では豪州主導の共同ステートメントも発表

3 「核兵器の人道的影響」に関する国際会議

(1) 2013年3月以降、有志国が核兵器の使用がもたらす様々な影響について科学的・技術的見地から議論を行う専門家レベルの会議を2回開催。いずれの会議にも5核兵器国は参加しなかった。

ア 2013年3月オスロ会議（ノルウェー政府主催）

イ 2014年2月ナジャリット会議（メキシコ政府主催）

(2) ナジャリット会議で発出された議長総括において、法的拘束力のある規範作りを志向する考えが示された。また、同会議において、オーストリア政府が本年後半（11月後半～12月前半頃）にウィーンにおいて次回会議を実施する旨発表。

4 日本の立場（本年1月の長崎での岸田大臣スピーチにおいて表明）

(1) 核兵器の非人道性についての正確な認識は、国際社会がますます多様化する核リスクに直面していることへの冷静な認識と併せ、核軍縮・不拡

散に向けた国際的取組を主導する上での基礎となるもの。

- (2) 核兵器の非人道性への認識を核軍縮・不拡散分野における現実的かつ実践的な取組を進める原動力とするためにも、普遍的かつ開かれた議論を進めることが重要。
- (3) 具体的には、以下の3つを重要な考え方として国際社会に訴えていく。
 - ① 核兵器の非人道性を考慮することは、国際社会を「結束させる」触媒であるべき。
 - ② 核兵器の非人道性についての認識を世代と国境を越えて「広げていく」。
 - ③ 核兵器の非人道性に関する科学的側面についての知見を「深めていく」

5 NPDI 広島外相会合における核兵器の非人道性の問題

NPDI 諸国の間でこれまで必ずしも立場が一致していなかった核兵器の非人道性の問題につき、初めて、上記我が国の立場を盛り込んだ NPDI としての共通の立場を確認することができた。

(注：昨年の国連総会第一委員会においては、NPDI12 カ国のうち7カ国が豪州の共同ステートメントに賛同し、6カ国が NZ の共同ステートメントに賛同)

6 NPT 運用検討会議に向けて

- (1) 核兵器の非人道性の議論に大きな注目が集まる中で、NPDI 広島宣言の文言が 2015 年 NPT 運用検討会議でも一つの考え方として議論のたたき台となることが期待される
- (2) オーストリア会議の重要性
- (3) 以下の悪循環を避ける必要がある
核軍縮が進まない→非核兵器国の中でフラストがたまり非人道性に焦点を当てつつ核兵器禁止条約を主張→核兵器国が反発し核軍縮が停滞→非核兵器国はますます核兵器禁止条約に向けての動きを先鋭化
- (4) 中東の問題やその他核軍縮が進展することにより核兵器国と非核兵器国
の間の溝を埋めることが期待される

7 核兵器国の人道の問題へのスタンス

核兵器の非人道性に対しては、核兵器国の中で温度差あり。ゴッテメラ米
国務次官（軍備管理・国際安全保障担当）は3月1日のマーシャル諸島におけるスピーチで核兵器の非人道性に言及。

(了)